

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	在住外国人の就労支援 ～仕事のための日本語指導～							
団体名	NPO 法人 可児市国際交流協会							

***** 事業のポイント *****

2008年の急激な経済不況に遭遇し、デカセギから帰国せず、日本に残る決断をした人々も、これから地域で安定した生活が出来るように就労していくためには、地域で必要とされる質の高い人材とならなければならない。そのためには就労現場に必要な資格等も必要であるが、少なくとも基本的な仕事の現場で使う日本語の習得をしておくことが肝要である。

そのため外国人が日本で就労していくための働き場所になるような職場を中心に、物作り現場や介護・福祉施設、コンビニ、レストランなどサービス業務等の職場で使われる実用日本語の習得指導を行うこととした。

助成年度 区分	平成 22 年度地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	2,060千円
------------	---------------------------	------	---------

事業の内容、成果等

【事業実施の背景】

一般の外国人向け日常生活の日本語学習の場としては、常設の毎週日曜日昼間及び土曜日の夜間に行う日本語教室、さまざまな学習者のニーズにこたえる日本語多様化教室、子どものための日本語教室、日系人による日本語サロンなども実施してきているが、就労現場で具体的で細やかな特殊な日本語の指導は十分出来ていなかった。特に2008年末からの経済状況下ではハローワークでの求人も、日本語が十分できなければ狭き門となる状況であった。

【事業の目的】

在住外国人が日本で就労していくために、これからの働き場所になるような職場(物作り現場、介護・福祉施設、コンビニ・レストランなどサービス業務など)を選んで、日常的に使われる実用的な日本語を習得してもらう。

【実施内容】

対象者: 日本語習得に意欲のある在住外国人

期 間: 2010 年5月～2011 年3月 (分野別に6期に分けて実施)

時 間: それぞれ木曜日と金曜日の夜間 19:00～21:00(2時間)全 78 回 156 時間以上実施、

参加者: 68 人(日系ブラジル人、ペルー人、中国人等)

講 座: 仕事現場に関係した講座項目として下記のように実施

① 一般の製造現場の職場に必要な日本語

期間: 5月 20 日～9月 30 日 回数: 19回 参加者: 16 人

② 介護施設現場に必要な日本語

期間: 5月 21 日～9月 24 日 回数: 18回 参加者: 8 人

③ 健康・福祉施設で使われる言葉

期間:10月1日~12月3日 回数:10回 参加者:12人

④ 就労のための日本語検定(N3)対策

期間:10月7日~12月9日 回数:10回 参加者:19人

⑤ 介護現場で使う言葉

期間:1月7日~3月18日 回数:11回 参加者:7人

⑥ サービス業務で使われる言葉(コンビニ・農業・給油スタンド・喫茶店・保険業・製菓店等)

期間:1月15日~3月19日 回数:11回 参加者:6人

指 導:日本語教師及び各関係職場専門家(介護施設の介護福祉士、コンビニ店長、喫茶店員、ガソリンスタンド社長、農業経営者、元部品工場長等)とサポーターが協働し、ワークショップなどを絵図・機材サンプルや製品見本等を用いて出来るだけ現場の雰囲気を出すように動作を交えて繰り返し指導

教 材:主に参考にした教材は「職場で役立つ日本語会話集」「しごとの日本語」「にほんごではたらこう」「介護スタッフのための声かけ表現集」「日本企業への就職」「暮らしの日本語指さし会話帳」「介護の言葉と漢字ハンドブック」「外国人のための看護・介護用語集」「短期マスター日本語能力試験ドリル N3」他等



診察時の会話:患者と医師の会話
診察時の会話練習



介護施設の日本語:声かけ表現
身体の部位表現など



産科・婦人科での言葉、母子手帳、
予防接種、認知症等で使う言葉



コンビニ:レジ対応実習



農産品の素材・味覚・農作業・食品
の出来るまでと流通販売対応など



保健師による食材と栄養についての
授業後での交流会で実習

【工夫したこと】

日本語教材にも多種あるが、出来るだけ実態に即した状況に合った、職場言語、方言も交えた対話ができるように心掛けて指導したこと。そのため現役の店長や現場で鍛えた元工場長等による現場の安全と指示・確認作業・報告等について指導した。

【事業の成果】

受講者の多くは有職者でかつ、他の日本語教室の経験者でもあったが、本事業を受講した者は、仕事によって日本語表現の多様性や、文化・生活・習慣等の背景が言語表現に深く関わっていることなども興味津々あって、職の専門家からの教授は、職に対する心構えや敬語の使い方等、日本人と共に仕事をするなかで今後に生かせる内容であり、非常に役立ったとの声が聞かれた。

【自己評価】

不安な社会状況で在住外国人にとって必要な日本語習得は欠かせないことからもっと多くの受講者を期待したがそれぞれ何らかの仕事に就いていることから、時間的余裕がなく参加出来ない状況になっていると思われる。長期的な安定した仕事に就くことを求めても仕事がない状況が変わらなければ当面短期の仕事で息を繋ぐしかないかもしれない状況に十分対応できなかった。

【課題とその後の取り組み】

本事業は終了したが、在住外国人にとって日本での就労のハードルは高く、日本語能力が高いだけでは就職に結びつかないことから、さらなる専門的な日本語と共に、資格や技能の習得を目指す施策プログラムが求められる。

外国人自らがその文化的背景を生かした活動や、多文化共生の職場を作りだす施策の支援事業ができないかと志向している。

その一つとして、演劇手法を用いた「防災ワークショップファシリテーター養成」活動を展開中である。これは、日本語が分からない在住外国人に、生活にまつわる様々な課題(とくに緊急災害時等での対応)等を演劇という手法を通して視覚と聴覚と動作を通して伝え理解してもらおうという活動である。各地でワークショップを実施し積み上げていき全国展開出来るようにしていきたい。